

HYOGOロータリーEクラブ藤原様、西宮恵美寿RCの坂本会長、浜田 20 周年実行委員長ようこそいらっしゃいました。

先週の日曜日は、大阪のフェスティバルホールに行って参り、泉先生の指揮のもと素晴らしいコンサートでした。井上晃一先生、中川尚美さんが一生懸命大きく口を開いて歌っている姿に感動、感激いたしました。ご苦労様でした。

また天羽ガバナー補佐と木嶋さんが無事に帰ってこられ、木嶋さんのご息子が結婚式をハワイで挙げられました。おめでとうございます。あたたかいハワイから、寒波の日本へ帰ってこられ、お身体にはお気を付けてください。

世界の飢餓人口が増える一方で、食べられるのに捨てられている「食品ロス」は世界で年間 13 億トンにのぼります。世界で一年間に作られる食糧の実に3分の1に相当します。日本の食品ロスも多く、年間621万トンに上り、国民の人が一日当たり茶碗一杯分を捨てている計算になります。

少しでも食品ロスを減らそうと、具体的な取り組みも始まっております。

生活に困っている人に配る「フードバンク」と呼ばれるボランティア活動で、日本国内には約 80 団体が活動しており、賞味期限が近づいてスーパーなどに納品しない食品を生活困窮者や福祉施設などに届けています。

フランスではスーパーなどに対し、売れ残った食品の廃棄を法律で禁じ、ボランティア団体への寄付を義務付けています。また宴会や会食で食べ残しを減らすために、国が 2016 年末に「30, 10運動」を進めています。乾杯後 30 分間と宴会終了 10 分前は席を立たずに料理を楽しむことを進める取り組みです。飲食店などの事業者の食品ロスは 339 万トンに上り、飲食店のごみの6割は食べ残しとされることから、ご馳走がごみになってしまうかどうかは私たち次第であります。もったいないことです。

「もったいない」とはもともと仏教の言葉であり、すべてのものは仏になる、すべてのものには命がある、命あるものを粗末にしてはいけない、という教えの命の大切さを伝える言葉でもあるそうです。現在の世の中、大人も子供も忙しくて残してもいいから早くしてとか、急かして食べ残してしまったり、修理するより買う方が安いからと使い捨ててしまったりと、そういう社会になってきているのではないのでしょうか。

もったいないには、自然の恵みと頂く命、作ってくれた人への感謝の気持ち、物や人を大切に思う思いやりが込められています。

そして「もったいない」の根底に流れているのは和の心であると言われてしています。

最後に二宮会員のように、笑顔で料理を食べたいものです。